様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６１４
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2014～2015
課題番号：２６７７０２８８

研究課題名（和文）演劇産業の消費者行動と大都市集積に関する地理学的研究

研究課題名（英文）A geographical study of the support and agglomeration structure of a theatrical drama performance

研究代表者
山本　健太（Yamamoto, Kenta）

國學院大學・経済学部・准教授

研究者番号：４０５９８１９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は，文化的生産物の生産の側面のみならず，流通や消費の側面からも大都市に集まるのか論じることが求められていることを踏まえ，大都市と地方における文化消費者の消費行動の違いから，当該産業の集積要因，存立基盤について明らかにすることを目的とした。
　広島市，福岡市，さらには広島と宮崎の縁辺地域を対象とした現地調査を実施し，パフォーマンスの実態を明らかにした。その結果，大都市ほどパフォーマンスの商品化がみられること，都市の産業構造によって，支援主体が異なること，地方では，パフォーマンスをコミュニティの維持や地域資源として捉えられていることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：This study reveals the support and agglomeration structure of live performance as a cultural product by focusing not only on the production aspect but also on the aspects of distribution and consumption.
The study surveyed the theatrical drama industry in cities of Hiroshima and Fukuoka and traditional performance in the rural regions of Hiroshima Prefecture and Miyazaki Prefecture. The study’s findings are as follows: (1) the performances in metropolises are more easily commercialized than those in other regions, (2) cities have different support systems based on their industrial structure, (3) It is difficult to make performances in rural regions commercially viable and function as resources for maintaining the communities and as tools for tourism.

研究分野：人文地理学

キーワード：広島　福岡　演劇　存立基盤　集積

１．研究開始当初の背景

技術，才能，寛容性が創造的な人々を特定の場所に惹きつけており，それによって支えられている創造性は，特に先進国大都市を中心として，次世代の経済の新たな牽引者として注目されている。実際，ある種の創造的な産業の空間的分布は，特定地域に集中している。

文化的生産物が大都市の中でどのように消費され，どのように地域へと流通していくのか，既存研究においては踏み込んだ議論はなされてこなかった。すなわち，文化的生産物の生産の側面のみならず，流通や消費の側面からも，当該産業の大都市集積の構造を論じることが求められるのである。そこで応募者は，演劇産業を対象として，劇場の立地と観劇者の消費行動についても，検討を重ねてきた。

この中で，観劇者を対象としたアンケート調査の結果から，一部の観劇者では，劇場の前後で映画館やライブハウス，博物館などの文化施設を「ハシゴ」するという消費行動が確認された。これら文化施設の近接立地が，文化の消費者を大都市に誘引し，演劇をはじめとした一部の都市型文化産業の集積を強化していることが示唆された。

２．研究の目的

本研究は，文化的生産物の生産の側面のみならず，流通や消費の側面からも大都市に集積することを論じることが求められていることを踏まえ，大都市と地方における文化消費者の消費行動特性の違いから，当該産業の集積要因，存立基盤について明らかにすることを目的とする。そこでは，東京，大阪，福岡をフィールドとして，現代演劇に着目し，各都市に形成されている文化製品消費の空間構造を比較する。

３．研究の方法

本研究は２年計画で実施し，初年度（平成26年度）においては，舞台芸術産業の全体像を確認するとともに，小劇場演劇産業の当該産業における位置づけと特殊性を把握する。加えて，大都市部と地方都市における観劇者の行動傾向を把握するために，制作企業を通じて観劇者を対象としたアンケート調査を実施する。これにより，定性的，定量的なデータを収集することで，各事例を詳細に把握しする。

２年目（平成 27 年度）においては，初年度の結果を補足するために，特徴的な劇団や劇場を抽出し，それら主体の経営戦略や情報発信戦略について聞き取り調査をする。２年目の後半には，国際学会での発表を通して，研究成果を積極的に海外にも発信する。

４．研究成果

本研究の結果，以下の諸点が明らかとなった。

（１）都市階層毎の市場圏の違いと劇団による指向性の違い

本研究の当初のフィールドは，東京，大阪，福岡であった。調査過程における状況変化と，より効率的な研究推進を検討し，福岡と並ぶ地方中枢都市広島市を擁する広島においても調査した。その結果，全国を集客圏とする東京，西日本を中心に集客する大阪，主として都市圏からの集客に限定される地方中枢都市という市場圏の違いが示された。

これら市場圏の違いは，パフォーマーの働き方や，演劇に対するモチベーションに大きな差異を生み出していた。すなわち，東京では，自身を俳優と位置づけ，主業を俳優業とし，実際の生計をアルバイトによって維持するものが少なくない。他方で地方中枢都市のパフォーマーは，主業を別に持ち，演じることはあくまで趣味の一環であると位置づけている。広島で確認された事例では，演じる目的として，広島の良さを外に向けて発信していきたいといったものなどもみられた。

またこのような市場圏とパフォーマーの活動目的における都市間の差異は，観劇者の観劇理由とも整合性を持つ。広範な市場圏を持ち，パフォーマーのプロ意識が高い東京や大阪における観劇者の観劇理由では，好きな脚本家，劇団，俳優の公演であることが指摘された。これら都市における観劇者は，観劇を，映画鑑賞などの日常的な趣味と同列にとらえている可能性がある。他方で，市場圏が狭く，パフォーマーが趣味の延長線上で活動している地方中枢都市では，観劇理由として，劇団関係の友人知人に誘われた，友人知人が参加することなどが主な理由として挙げられている。観劇を友人知人のハレの姿を見に行く機会ととらえていることがわかる。

（２）同階層都市における，支援主体の違い

福岡と広島では，当該産業の支援主体と支援の構造が大きく異なることが確認された。

すなわち，福岡の場合，とりわけ福岡市では，鉄道会社をはじめ，大手企業によるメセナ的活動の一環として，民間の劇場が多く立地していた。また，支援者として市外郭団体による助成も確認できたものの，演劇フェスティバルの主催などはNPO団体が実施しており，民間による積極的な支援が認められた。

他方で広島の場合，広島市内をみると，主たる劇場はいずれも行政が運営しており，活動支援も各劇場が主体となって実施している。広島で活動する劇団の活動場所は，多くが青少年センターや公民館など，公的主体が運営を担う施設に限られているなど，福岡と比較した場合には，行政の影響力が大きい。

これらの違いは，都市階層上同じ地位にある都市群の中でも，行政の文化施策への態度の違いのみならず，資本力のある企業の集積具合にも大きく左右されるものと考えられる。

1990年代以降，札仙広福といったわが国4

大中枢都市間でも，人口や産業集積，都市の成長具合の差が大きくなってきていることは，多くの研究で指摘されている。これら「支店経済の街」ともいわれる４大都市にあって，福岡市の人口増加と産業集積，広島市の縮小は注目されるところである。この背景には，通信，交通インフラの発達はもとより，長期経済不況やグローバル化による企業内空間構造の再編なども挙げらる。これらの現実空間への影響の一つとして，福岡（，札幌）の成長と広島（，仙台）の衰退があることは，詳述するまでもない。さらには，福岡市における企業による文化ホールのメセナ的運営とそれらホールの集積に顕れている。

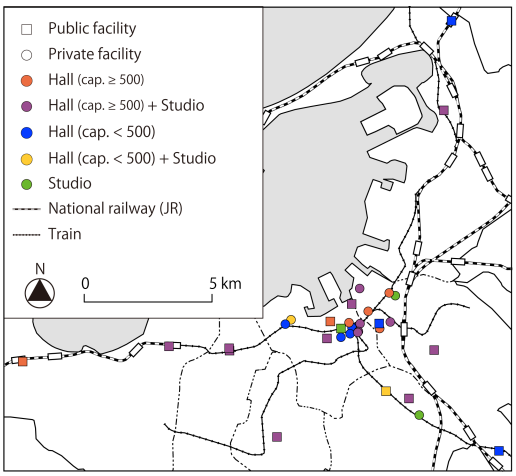

図１　福岡市における劇場の立地

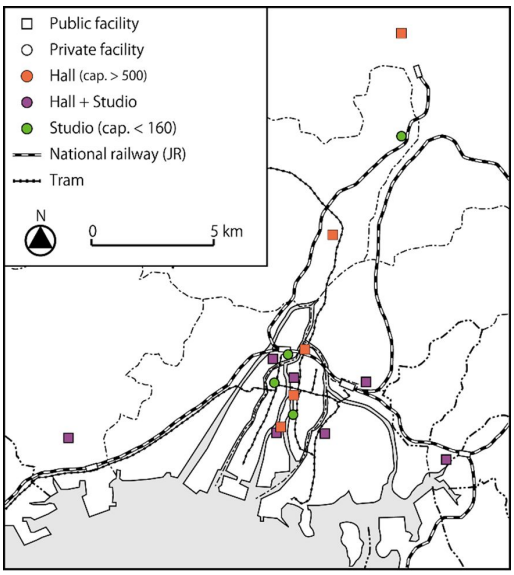

図２　広島市における劇場の立地

（３）縁辺地域におけるパフォーマンスの産業化

本研究は，本来想定していた研究スケジュールよりも円滑に推進できたため，研究対象をさらに広げ，より広範な地域において，パフォーマンスの有り様をとらえることができた。

地方縁辺地域における伝統的パフォーマンスである神楽舞の商品化について，広島県および宮崎県をフィールドに調査した。過疎化が進み，限界集落化しつつある近年の縁辺地域農山村では，地域の伝統文化を観光資源ととらえ，利用することで交流人口の増加と地域経済の維持または活性化を目指す動きがみられる。他方で，そのような伝統文化の「商品化」を良しとしない住民との間で，軋轢が生じている。

調査の結果，神楽舞の地域における役割として，積極的に商品化しようとするもの，地域コミュニティの維持のために活用しようとするものが確認できた。前者は，場所の持つ真正性を巧みに利用しながらも，地域から離れ，自由主義市場の中で消費されるパフォーマンスになりつつあった。また後者は，外部からのまなざしをあまり意識せず，むしろ地域住民間の情報交換や慣習の継承の場として活用されていた。

このような神楽舞の現代的な姿は，都市部でのみ成立しうる演劇産業とは異なるメカニズムの中で産業化と市場獲得をしており，文化産業の生産と消費の空間構造を理解するうえで興味深い。また，今後の文化産業政策についても重要な示唆を与えるものである。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　２件）

①山本健太・和田崇・米良亘平 2016： 神楽の現代的状況：宮崎神楽と広島神楽にみる神事性と商品性．國學院大學紀要 54：43-71.
②山本健太 2015： 芸術・文化鑑賞者の行動特性とインターネット利用の実態．荒井良雄・箸本健二・和田崇編『インターネットと地域』ナカニシヤ出版： 151-168.

〔学会発表〕（計　７件）

①YAMAMOTO Kenta 2015: Cultural Creation and Support System in Local Cities, Japan: the Case Study of Theatrical drama on Hiroshima City and Fukuoka City. 10th China-Japan-Korea Joint Conference on Geography. East China Normal University, Shanghai, China.
②YAMAMOTO Kenta 2015: The Characteristics and Information Acquisition Behaviors of Theater Audiences in a Local City: A Case Study of Hiroshima, Japan. IGU Moscow 2015. Lomonosov Moscow State University, Moscow, Russia.
③和田崇・山本健太 2015： 広島神楽―再領域化の可能性．日本地理学会 2015 年春季学

術大会.
④山本健太・市原真優・和田崇 2015： 地方における演劇文化の発展可能性―広島市の事例から. 日本地理学会 2015 年春季学術大会.
⑤YAMAMOTO Kenta 2014: Information acquisition behavior of performance art audiences: Cases of Tokyo and Osaka, Japan. IGU Regional Conference in Krakow, Poland. Jagiellonski University, Krakow, Poland.
⑥YAMAMOTO Kenta 2014: Information-seeking by Audiences of the Performing Arts in Tokyo and Osaka. 9th Korea-China-Japan Joint Conference on Geography. Busan, Korea.
⑦山本健太 2014： 観劇者の情報取得機会と行動特性―劇団 A の東京および大阪における公演を事例に. 経済地理学会関東支部 7 月例会.

〔図書〕（計　0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
①JBPress 2015： 神楽に学べ！変化を受容してこそ伝統は受け継がれる　「神楽舞」は、なぜ地域の資源なのか（その 3）
http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/44417　（Web 記事取材）
②JBPress 2015： みんな笑って夜はふける地域を 1 つにする神楽の力　「神楽舞」は、なぜ地域の資源なのか（その 2）
http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/44322　（Web 記事取材）
③JBPress 2015：秘められた神の舞、今や地域の目玉に　「神楽舞」は、なぜ地域の資源なのか（その 1）
http://jbpress.ismedia.jp/articles/-/44147　（Web 記事取材）
④山本健太 2015： シンポジウム「石見神楽と観光活性化」島根県立大学（パネリストとして）.

６．研究組織
(1)研究代表者
山本健太（YAMAMOTO Kenta）
國學院大學・経済学部・准教授
研究者番号：40598190

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：